

編集後記

一七九号をお届けいたします。

今号は、いずれも明治期を中心とした論説がそろいました。山本氏の論説は、咸宜園門人たちが東京に設立した玉川吟社の活動について明らかにしていますが、改めて咸宜園の教育の影響の大きさと人脈の広さに気が付かされました。末広氏は、これまで不明な点が多かった草創期の大分県の県治機構を、初代県令下森下景端の周辺からさぐり解明しています。野田氏は、一七二号に続き藤田茂吉の思想形成について論じています。平民意識・三田系イギリス派の思想・「孟子」的要素が、茂吉の中で消化されて独自の民権思想が形づくられる過程が巧みな文章で綴られています。

まもなく新しい世紀となります。大分県地方史研究会と会員諸氏のさらなる発展を祈念しております。